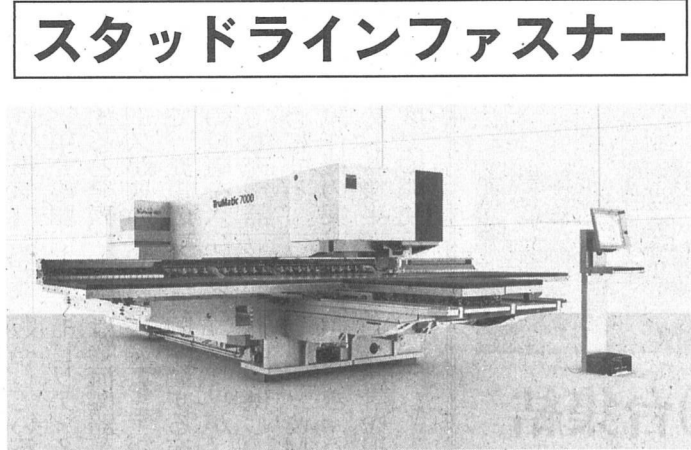


独・中国製を一括提案

板金加工機 低コスト・メンテ拡充



トルンプ製パンチ・レーザー複合加工機も提案する

スタッドラインファスナー（大阪府東大阪市、西川博文社長）は、4月から独トルンプ製タレットパンチプレス機と中国ボーダーレーザー製ファイバーレーザー加工機のパッケージ提案を始める。国内メーカー製の板金加工機に比べて購入費用を抑え、新規導入や買い替えのハードルを下げる。2028年12月期までに修理やメンテナンスに対応できる営業技術スタッフを現行比2・7倍の16人程度に増やす。年間10億の受注を目標とし、26年12月期の売上高で前期比37・5%増の5億5000万円を目指す。

国内メーカー製が高額で導入をためらう板金加工業者者に「新たな選択肢」（西川社長）を提案する。

ボーダーレーザーは自社製の発振器を生かした豊富なラインアップが強い。一方のトルンプも発振器を含めてファイバーレーザー加工機の機械を連動し、1枚の板の上に複数の部品形状を割り付ける。ステンディングなどのデータ連携が容易になる。

ボーダーレーザー製品の導入検討で板金加工業者が懸念する修理とメンテナンスに対し、スタッドラインファスナーは専門スタッフが3人配備しており、今後増員する計画。

西日本から全国に販売を広げる一環として、25年秋から大手卸売商社と連携を開始した。

パッケージ提案の開始に合わせて、4月15日から大阪市内で開かれる展示会「インターモールド」にボーダーレーザーと共同出展し、実機を紹介する。

最大加圧能力165kgfの「TruPunch2000」と、ボーダーレーザーが入門型と位置付ける「Aシリーズ」を組み合わせた場合、運搬・設置費を除いた消費税抜き価格は1億円程度という。

キヤドマック（東京都港区）やランテックジャパン（横浜市港北区）が提供するコンピュータ利用設計・製造（CAD/CAM）ソフトウェアも価格に含める。同ソフトでトルンプとボーダーレーザーの機械を連動し、1枚の板の上に複数の部品形状を割り付ける。ステンディングなどのデータ連携が容易になる。

スタッドラインファスナー

シンガポールで受注

ゴミ焼却発電ボイラ改造

三菱重工

三菱重工はシンガポール子会社のMHIアス地区の「チユアス10」12月期に完工予定

実現する。2027年重工業環境・化学エンジニアリングを担当している。

今回の改造では三菱重工環境・化学エンジニアリングが運転・保守管理を担っている。

設計・施工で00年に完成。処理能力は1日当たり3000tで、NEAが運転・保守管理を担っている。

MHI ECは1986年に運転を開始した事業運営や運転支援を含めたアフターサービスも行う予定。

の廃棄物焼却発電施設の納入実績を持つ。同国では、従来の機器供給・施設設計・施工だけでなく、施設の事業運営や運転支援を含めたアフターサービスも行う予定。

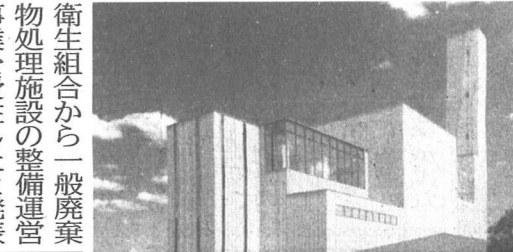
神奈川にゴミ処理場

JFEエンジ、245億で受注

設計・施工と運営 一括受託

JFEエンジニアリング（東京都千代田区、福田一美社長）は30日、神奈川県足柄上

衛生組合から一般廃棄物処理施設の整備運営事業を受注したと発表



単一素材PTPに

CKD、ブリスター包

【名古屋】CKDは流通していない。CKDは医薬品、材料メーカーと連携して製造プロセスを重視、早期の実用化を目指す。

CKDが手がけるブリスター包装機は容器側とふた側のシートを、熱と圧力をかけて貼り合わせる。モノマ

温度 同じ 品質 確

溶接ロボ 日本に投入

中国ボーダーレーザー コスパパ訴求

中国ボーダーレーザーはファイバーレーザー溶接専用の6軸多関節ロボットを日本市場に投入する。出力3キロワットの自社製溶接機とセットで5月に発売する。価格は検討中だが、日本メーカー製に比べて安価にする考え。10月には協働ロボットの発売も予定する。販売代理店などを通じてアフターサービス体制を作り、コストパフォーマンスを訴求して国内市場を開拓する。

ボーダーレーザーは2023年に中国は、自社製振器を搭載したファイバーレーザー加工機を中心に板金関連機械を数多くそろえる。多関節ロボットは2023年に中国で初めて発売し、月平均10台、累計約300台の納入実績があるという。

「i welder 18」は、ファイバーレーザー溶接に特化した。出力3キロワットの水冷式溶接機に接続し、最大板厚8ミリに対応する。アームの長さは1.8メートル。先端に取り付けるレーザーヘッドも同社製を使用する。



▲金型専門展示会「インターモールド」で国内初披露した

国内市場への参入は後発となるが、営業マネージャーの王瀟氏は「部品はすべて自社で製造し、日本で活動する技術者も3人いる」とし、コストパフォーマンスとアフターサービスを訴求していく考え。

国内の販売体制は、同社製品をすでに取り扱っているスタッフドラインファスナー（大阪府東大阪市、西川博文社長）が三重県以西を担当する。東日本エリアは検討中という。

西川社長は「ロボットとのセットアップまで対応できる体制は整っている。修理に対応するために、増員も進める。喜ばれる価格で早く拡大したい」と話